

製品の機能が十分発揮されるように、この施工説明書の内容にそって正しく取付けてください。
この施工説明書と水栓金具に同梱されている説明書を合わせてご確認ください。

☆安全上の注意

- 取付前に、この「安全上の注意」をよくお読みの上、正しく取付けてください。
- この説明書では、商品を安全に正しく取付けていただくために、必ずお守りいただくことを、お知らせしています。使用者や他の人々への危害や物的損害を未然に防止するために、必ずお守りください。

■お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。



このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。

表示	意味
警告	この表示の欄の内容を無視して誤った取付けをすると、死亡又は重傷などを負う可能性が想定される内容を示しています。
注意	この表示の欄の内容を無視して誤った取付けをすると、傷害又は物的損害が発生する可能性が想定される内容を示しています。

- 本体に同梱されている取扱説明書は、お客様にお渡しする大切な書類です。紛失や汚れが生じないように大切に保管し、取付工事完了後、引き渡し時にお客様にお渡しください。

警告				
壁固定ねじ取付位置に棧を入れて補強してください	電気配線工事・給排水工事は、関連する法令にたがって、必ず「有資格者・業者」が行ってください	電源は交流100Vを使用してください	使用地域の周波数にあわせてください	浴室など湿気の多い場所へ設置しないでください
キャビネットが転倒しケガの原因となります。 	火災や感電及び漏水の原因となります。 	交流100V以外を使用すると過電流による火災の原因となります。 	60Hz用器具を50Hz用地区で使用すると火災の原因となります。 	漏電により感電の原因となります。
警告		注意		
電気コードを傷つけないでください	湯・水を逆に配管しないでください	凍結のおそれがある地域では、必ず凍結防止工事を行ってください	工事完了後、給排水管から漏水がないことを必ず確認してください	工事完了後、キャビネットの固定・扉の傾き・ガタツキ・丁寧のゆるみがないかを必ず確認してください
電気コードを傷つけると漏電及び火災の原因となります。 	水側でいきなり湯が出て、やけどの原因となります。 	凍結破損で漏水し家財などに損害を与える原因となります。 	漏水を起こすと、家財などに損害を与える原因となります。 	使用中にキャビネット・扉が落下してケガの原因となります。

☆工事寸法

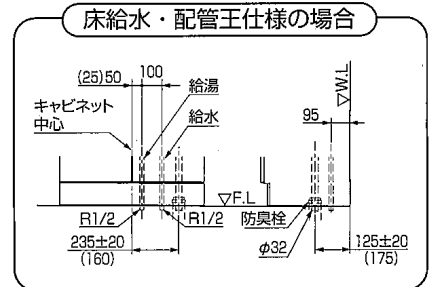
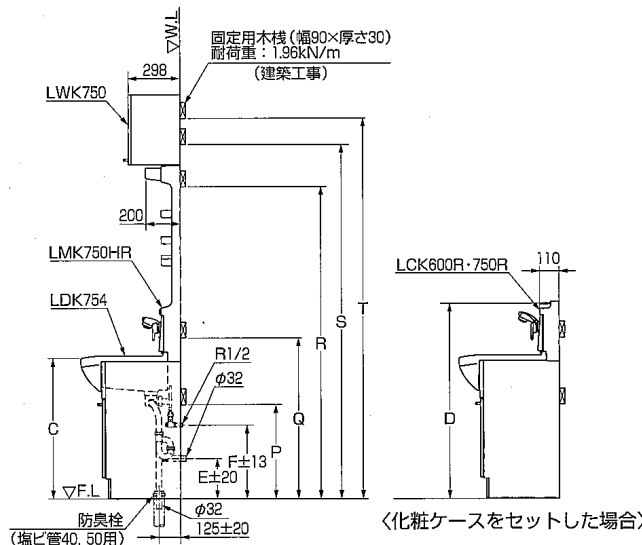
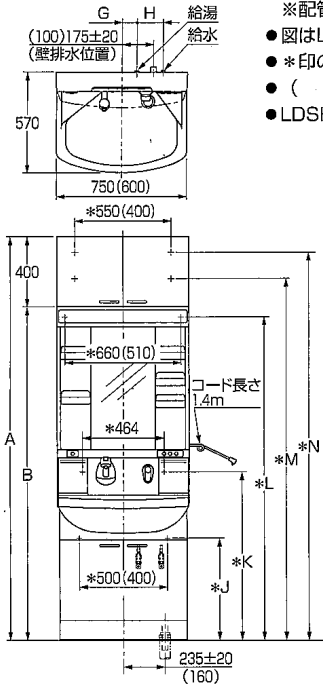
- 特殊品の場合の工事寸法は承認図をご確認ください。
- 壁排水パイプは付属していませんので必要な場合は、LO59をご購入ください。
- 配管王仕様タイプには止水栓は付属していませんので、右記品番をご購入ください。
※配管王とは、TOTOの樹脂配管システムです。
- 図はLDK754BS+LMK750HRタイプです。その他の機種は外観形状が若干異なります。
- *印の寸法は、木ねじ位置を示します。
- ()の寸法は600サイズを示します。
- LDSK604・754・755・757Cタイプは、(洗面化粧台+台輪)になります。

配管王仕様用止水栓(給水管タイプ)

製品品番	品番	数量
LDK604・754・755・757A	TN901B2X	2個
LDK604・754・755・757B	TN901B1X	2個
LDK604・754・755・757C	TN901B3X	2個

配管王仕様用止水栓(樹脂配管引上げタイプ)

製品品番	品番	数量
全製品品番	TN901B6 V2X	2個



製品品番	外観寸法					給排水位置						壁固定位置					固定用木棧位置							
	A	B	C	D	E	F		G		H		J	K	L	M	N	P	Q	R	S	T			
						シングル水栓	サーモ水栓	シングル水栓	サーモ水栓	シングル水栓	サーモ水栓													
LDK604・754・755・757A	2250	1850	750	1070	180	370	320	25	85	25	50	150	100	150	530	910	1795	2010	2160	485	865	1725	1965	2115
LDK604・754・755・757B	2300	1900	800	1120	230	420	370	25	85	25	50	150	100	150	580	960	1845	2060	2210	535	915	1775	2015	2165
LDSK604・754・755・757C	2350	1950	850	1170	280	470	420	25	85	25	50	150	100	150	630	1010	1895	2110	2260	585	965	1825	2065	2215

☆付属部品明細

洗面化粧台 LDK ※12,13は水栓に同梱

名 称	数 量	
1 水受けトレイ(シャンプータイプのみ)	1個	
2 防臭栓	1個	
3 排水ふた	1個	
4 給水ふた	一般仕様タイプ	2個
	配管王仕様タイプ	—
5 ふた用木ねじ(φ3×12)	一般仕様タイプ	7本
	配管王仕様タイプ	3本
6 壁固定用木ねじ(φ4.5×50)	2本	
7 取扱説明書(保証書付)	1冊	
8 排水トラップ	1セット	
9 連結パイプ(説明書同梱)	1セット	
10 水栓一式(保証書同梱)	1セット	
11 止水栓	2個	
12 壁固定用木ねじ(φ4.5×50)	2本	
13 化粧キャップ	2個	

化粧鏡 LMK

名 称	数 量
1 歯ブラシ立て	1セット
2 照明カバー	1個
3 蛍光灯ランプ	1本
4 扉	2個
5 壁固定用木ねじ(φ4.5×50)	2本

化粧ケース LCK

名 称	数 量
1 歯ブラシ立て	1セット

台輪 LFK

名 称	数 量
1 連結用木ねじ(φ4.5×35)	2本
2 化粧キャップ	2個

ウォールキャビネット LWK

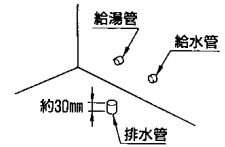
名 称	数 量
1 壁固定用木ねじ(φ4.5×50)	4本
2 棚受ダボ	4個

☆設置上の注意

- 湿気の多い場所では、木部が膨潤するおそれがありますので設置しないでください。特に浴室には、設置しないでください。
- 直射日光にさらされる場合は必ずカーテンなどでさえぎってください。
- 取付けは必ず平滑な壁面としてください。

☆取付前の準備

- キャビネットの壁固定部分には、壁面に固定用木棧を入れてください。
※特にウォールキャビネットは洗面用具などが収納されるとかなりの重量になりますので、地震などの際に落ちることのないように、壁固定ねじ取付位置には、壁面に固定用木棧を入れてください。
(壁面に固定用木棧が入られない場合は、前面に厚み12mm以上の板を強固に取付けてください。)
- 給水・給湯管を所定の位置に取出してください。
- 器具を取付ける前に必ず給水・給湯管内のごみ、砂などを完全に洗い流してください。
- 化粧台に給水・給湯穴(φ52×2)、排水穴(φ90)を穴あけしてください。
(排水穴はVU40,VU50又はVP40,VP50をご使用ください。)



☆使用条件

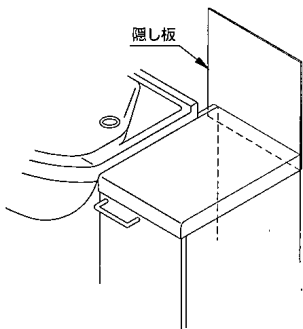
- 水栓金具の使用条件は水栓金具に同梱の施工説明書をご確認ください。

☆取付手順 (番号順に取付けてください。)

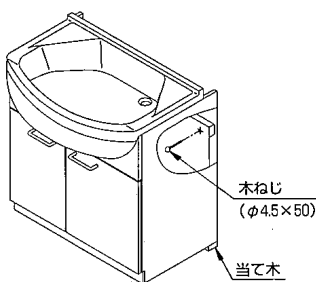
※タイル・コンクリート壁の場合は、現物に合わせて木ねじ位置に下穴をあけ木ねじ用プラグを打込んでおいてください。
(プラグ用の下穴は必ずご使用プラグ指定のドリル径であけてください。)

①洗面化粧台の取付け

※すきま埋めスペーサー(LO8)を取付ける際は、化粧台を取付ける前に行ってください。
(すきま埋めスペーサーに同梱の施工説明書を参照してください。)



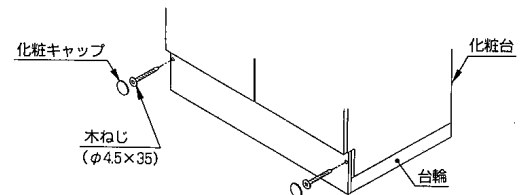
- 洗面化粧台の横にフロアキャビネットとサイドキャビネットが取付くレイアウトの場合は、図のように、隠し板を取付けたフロアキャビネットを据え付けたあとに、洗面化粧台を取付けてください。(フロアキャビネットに同梱の施工説明書を参照してください。)



- 床が水平でない場合には、扉に段差ができるおそれがありますので丁番を調整して段差をなくしてください。(調整要領は扉裏面に張付けのラベルを参照してください。)それでも良くならない場合は、当て木をして水平になるように調整してください。
- 付属の木ねじ(2本)で壁固定してください。

〈台輪をセットする場合〉

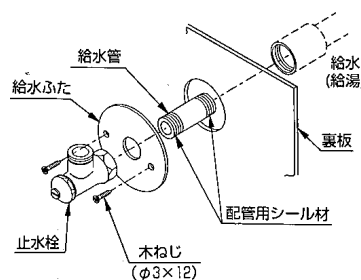
- 台輪の上に化粧台をのせて、木ねじ(台輪に同梱)で固定し化粧キャップを取付けてください。



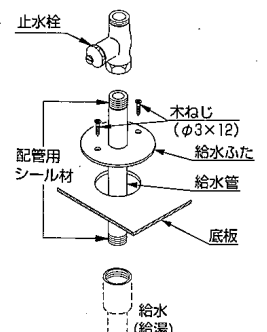
②止水栓の取付け

- 工具で確実に締付けてください。
- 配管王仕様タイプの取付要領は止水栓に同梱の施工説明書を参照してください。

〈壁給水の場合〉

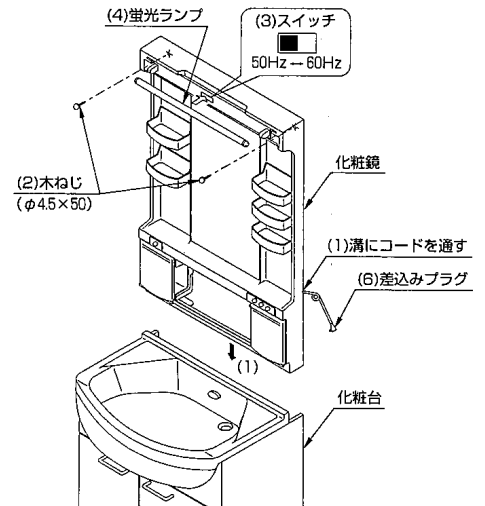
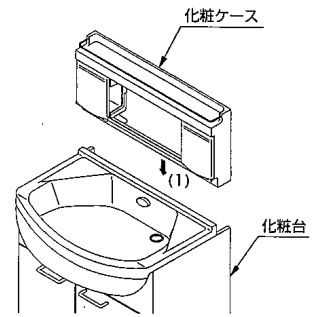


〈床給水の場合〉

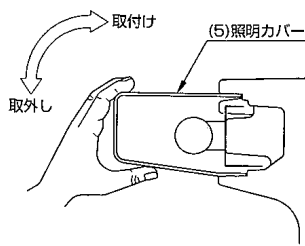


③化粧鏡・化粧ケースの取付け <化粧ケースの場合は(1)のみの施工になります。>

- (1)化粧鏡・化粧ケースを洗面化粧台の上のせて左右の位置合わせをしてください。
 その際、化粧鏡の場合は電源コードを本体側面の溝から外に出しておいてください。
 ※化粧鏡開口部に電源コードをたまるませないようにしてください。
- (2)化粧鏡の上部を付属の木ねじ(2本)で所定の位置に確実に固定してください。
 ※取付壁面がゆがんでいる場合は、鏡がゆがむことがありますのでゆがまないよう、木ねじのねじ込代を調節しながらねじ込んでください。
 壁とのすき間が大きい場合は、化粧鏡の裏面に当て木をしてください。
 ※壁固定は所定の固定穴を使用してください。
 電源コードとねじが接触しないよう、またコードをはさまないように施工してください。
- (3)蛍光灯本体の周波数は50Hzにセットされていますので、60Hz地域でのご使用の場合はスイッチを60Hzに切替えてください。切替えはスイッチを押してスライドさせてください。
- (4)付属の蛍光灯を取付けてください。
- (5)照明カバーを取付けてください。その際、グローランプのゆるみがないか確認してください。
- (6)差込プラグをコンセントに接続してください。その際コードを束ねたまま接続しないでください。
 ※プラグ差込み方向によってはコンセントの極性が逆になりますので確認の上接続してください。

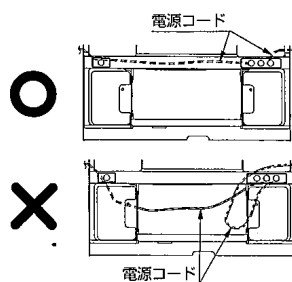


カバーの取付方法



電源コードの確認

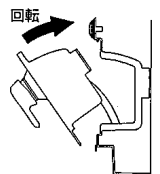
※電源コードが開口部にたまるんでいないか確認してください。



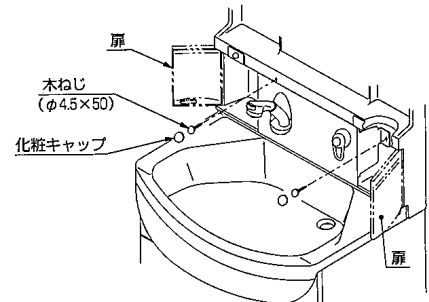
④水栓パネルの取付け

- (1)水栓の給水・給湯ホース及びシャワーホース(シャンプータイプのみ)を化粧鏡又は化粧ケースの開口部に差込んでください。

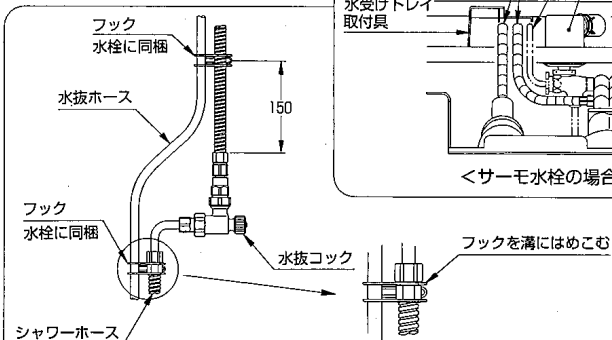
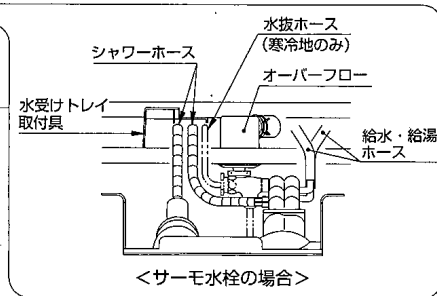
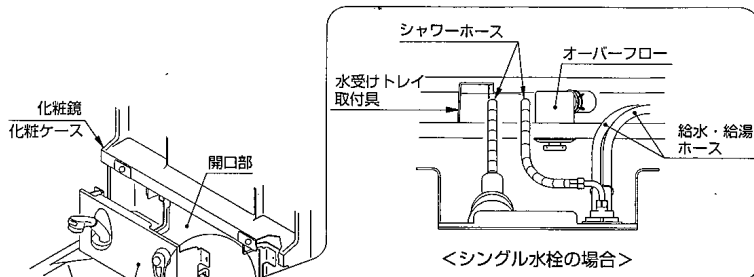
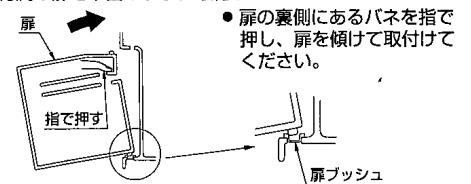
- (2)水栓パネルを回転させるようにセットしてください。



- (3)付属の木ねじ(2本)で確実に固定して、化粧キャップ(2個)をはめ込んでください。その際、電源コードを傷付けないように注意してください。



- (4)化粧鏡に付属の扉を下図のように取付けてください。



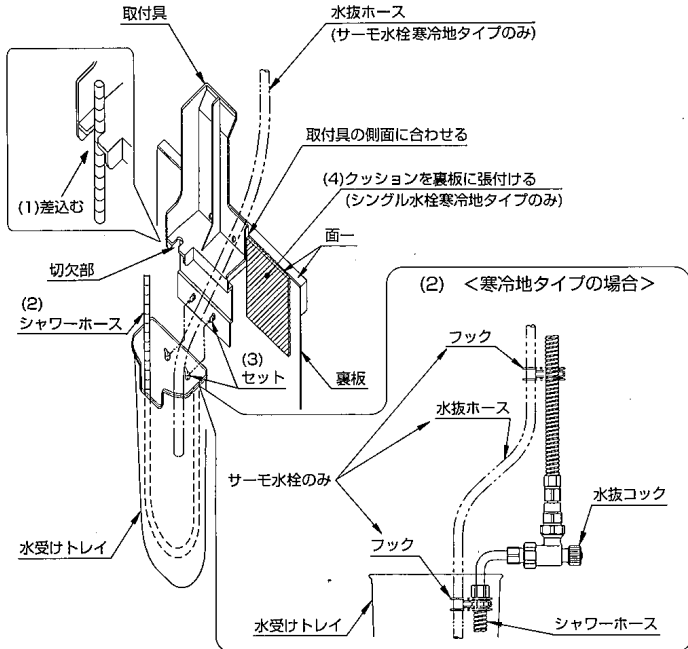
※サーモ水栓寒冷地タイプの場合はシャワーホースにフック(2個)を取付け、フックに水抜ホースを通した後、開口部に差込んでください。

⑤給水・給湯ホースの接続

- 給水・給湯ホースの接続は、水栓金具に同梱の施工説明書を参照してください。

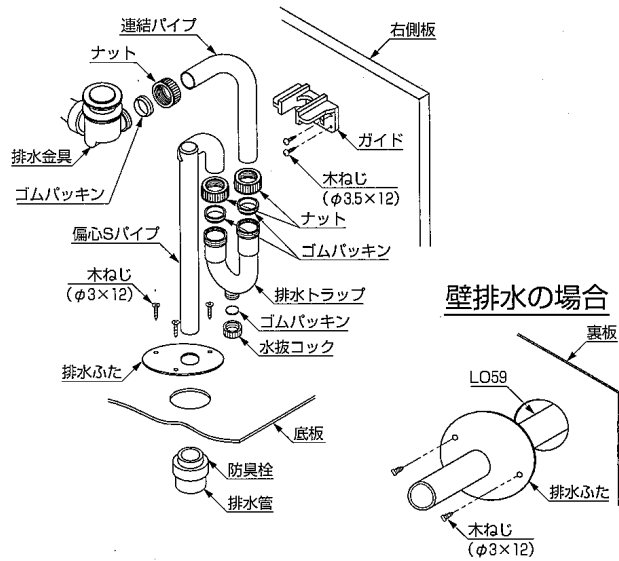
⑥水受けトレイの取付け (シャンプータイプの場合)

- (1) シャワーホースを取付具の切欠部に差し込んでください。
- (2) 水受けトレイにシャワーホースを入れてください。
※サーモ水栓寒冷地タイプの場合は、水抜ホースをフックに通した状態で水受けトレイの中に入れてください。
- (3) 水受けトレイを取付具にセットしてください。
- (4) シングル水栓寒冷地タイプの場合は、水栓に同梱のクッションを裏板に張り付けてください。

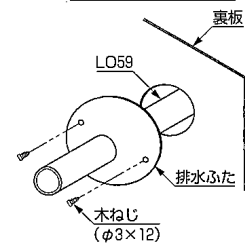


⑦排水パイプの取付け

- 取付要領は、連結パイプに同梱の説明書を参照してください。
- 床排水の場合は、排水管に防臭栓をはめてパイプを差し込んでください。



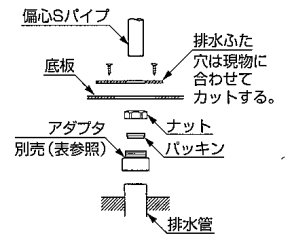
壁排水の場合



アダプタ接続の場合

アダプタの種類	サイズ
T1122 (ガス管用)	R1 1/4
LO48 (塩ビ管用)	40用
LO49 (塩ビ管用)	50用

※LO48・49は、接着剤で排水管和確実に接合してください。



☆温度調節 (サーモ水栓の場合)

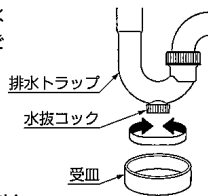
- 水栓金具に同梱の取扱説明書を参照してください。

☆寒冷地タイプの水抜方法

- 寒冷地タイプの場合は器具内の水を抜くため、水抜コックを設けております。凍結のおそれのある時期に施工された場合は、別途設備された水抜栓の操作と合わせて次の要領で水抜きをしてください。また、お客様にも水抜方法をご指導ください。

(水抜手順)

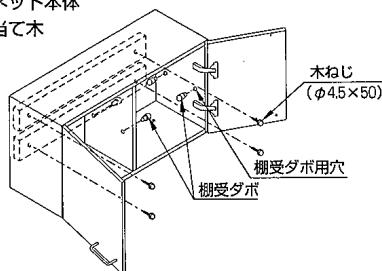
- ①水栓金具の水抜方法については、水栓金具に同梱の施工説明書を参照してください。
- ②排水トラップの水抜コックを開いてください。
※水抜き後は、必ず水抜コックを確実に締めてください。



☆ウォールキャビネットの取付け

(別売品のウォールキャビネットを取付ける場合は、この方法にしたがってください。)

- ウォールキャビネットを化粧鏡の上ののせて、水平方向・垂直方向の位置合わせをしてください。
- 付属の木ねじ(4本)で確実に固定してください。
※壁がゆがんでいると、キャビネット本体がゆがんで取付きますので、当て木を入れて垂直に固定してください。
- ※タイル・コンクリート壁の場合は、現物に合わせて木ねじ位置に下穴をあけ、木ねじ用プラグを打込んでおいてください。
- 棚受ダボを棚受ダボ用穴に差し込み、棚板をのせてください。



☆取付完了後の確認と清掃

- キャビネットが壁に確実に固定されていることを確認してください。
- 通水し、配管接続部に水漏れがないことを確認してください。
- 袖鏡が確実に閉まるか確認してください。
閉まらない場合は、下図のようにキャッチの高さを調整してください。
- 照明スイッチを押して蛍光灯が点灯することを確認してください。
- くもり止めヒータスイッチを入れて、スイッチ内のランプが点灯することを確認してください。
- コンセントに電気カミソリなどを差し込み、通電するか確認してください。
- 設置後、長期間使用されない場合は差し込みプラグを抜いてください。
- 棚受ダボの抜けがないか確認してください。
- 製品についた汚れ(プラスチック部品の静電気による黒い汚れを含む)は、ぬれた布をかたくしぼってふき取ってください。
その後、水を濡らせた布に少量の中性洗剤をつけてふき上げ、最後からぶきしてください。
シンナー・ベンジンなどの使用は表面の変色・変質の原因となりますので、絶対に使用しないでください。

